

施策	32 農林業の振興		
事業名	地域活性・交流拠点整備事業	担当課	農林課

## 事業の概要

目標対象者概要	本市の農業は小規模な経営で、多くの農地は山間部に散在し、農業従事者の高齢化や担い手不足、遊休農地の増加等の問題が生じている。また近年、開発団地における高齢化や、都市回帰等による人口減少が進んでおり、郊外都市としての魅力が求められている。そこで、都市圏に近接しながらも豊かな自然環境を有する本市の立地条件を活かし、「地産地消の推進」、「交流型農業の展開」、「農商工の連携等」の視点から、農の資源の活用による交流拠点を整備する。 地産地消の推進・交流型農業の展開・農商工の連携・遊休農地の解消といった視点から、地域資源や社会資源の豊富な「高向地区」において農産物直売所や交流施設、地産地消レストラン、地域産業振興施設、体験農園等からなる「地域活性・交流拠点」を整備する。
---------	--

## 指標の推移

事業の指標		単位	H28	H29	H30	H31	H32
1	奥河内くろまろの郷の売上額	億円	予	7	7		
			実	6			
2	「奥河内くろまろの郷」エリア全体での来場者数(年間)	人	予	580,000	600,000		
			実	507,000			
3	「人と自転車にやさしいまちづくり」関連イベントの参加者数(年間)	人	予	400	500		
			実	450			

## 事業の評価

指標の状況	売上額、エリア全体での来場者数は増加はしているが、共に目標値には達していない。JAの売り上げ、来場者は増加しているが、くろまろの郷はレストランが年度途中のオープンであった昨年との対比では増加しているが、指定管理者変更による運営方法の見直し等の影響もあり、思うような売上増加させることができなかった。またエリア内の各施設の集客はやや減少しており、さらなるエリア内での連携が必要である。イベントについてはロゲイニング大会が前年を上回る参加者であり実績アップに貢献した。
総合評価	売上、集客数とも指標には未達であるが、確実に数字は増加している。次年度には「道の駅」に登録されることもあり、今まで以上に施設の設置目的である地産地消の推進と交流人口の増加促進に寄与する見込みであり、売上、集客についても達成できる見込みである。指定管理料については、指定管理者変更の公募時に仕様の見直しを行ったことにより前年度と比べて削減したものの、売り上げについては上昇しており、費用対効果は上昇した。
今後の方向性	現状維持 平成29年度春に「道の駅」登録を予定しており、道路休憩施設として駐車場やトイレの24時間利用可となるが、指定管理料を増加させずに来場者へのサービス水準の向上を図る。

## 事業費(決算額)・財源

		H28当初予算	H28決算	H27決算	増減
事業費(決算額) (千円)		41,407	61,652	167,444	-105,792
財源内訳	一般財源 (千円)		31,980	45,287	-13,307
	国府支出金 (千円)		20,688	58,959	-38,271
	地方債 (千円)		0	28,500	-28,500
	その他特定財源 (千円)		8,984	34,698	-25,714